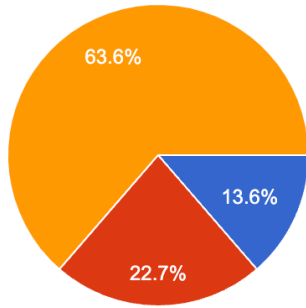
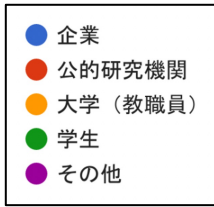
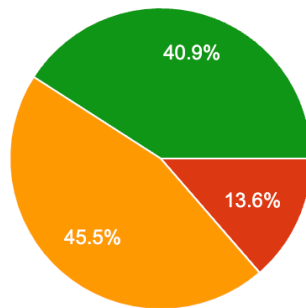
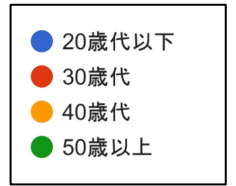


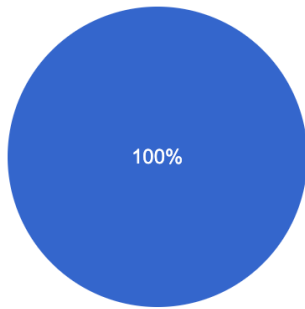
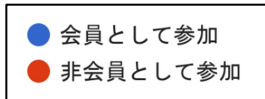
### 所属



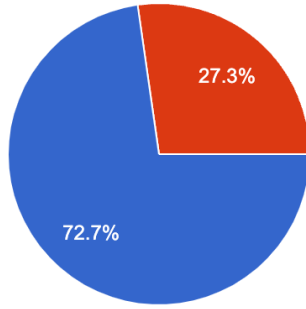
### 年代



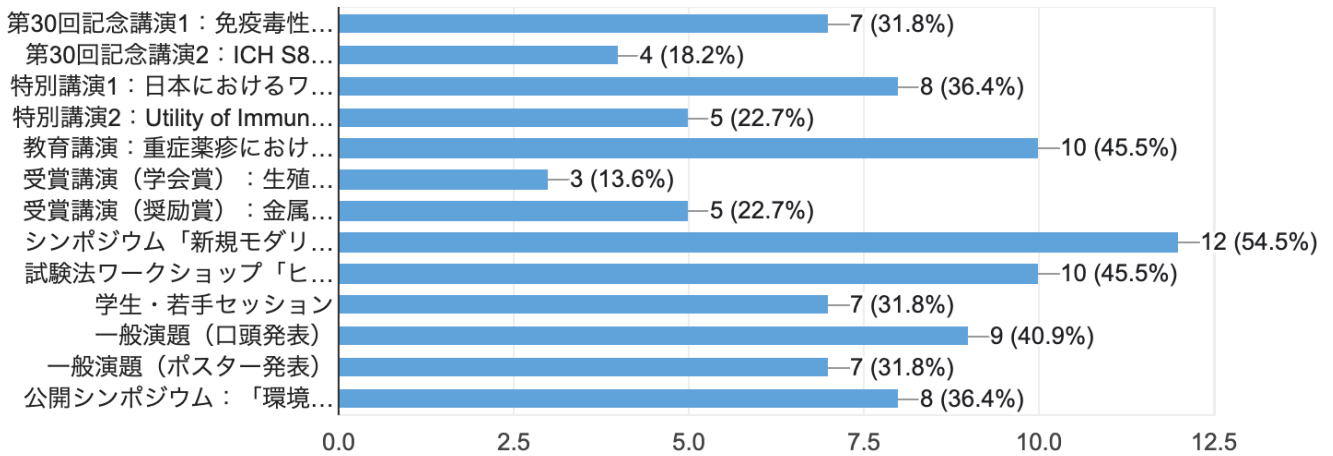
### 参加条件



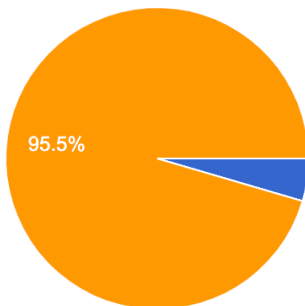
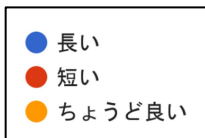
### 総評



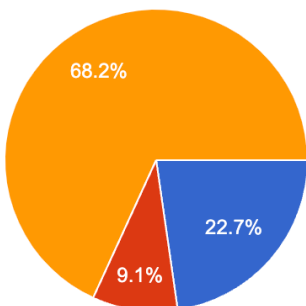
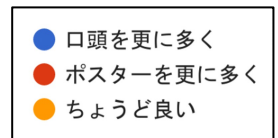
## 興味を持った講演やセッション（複数回答）



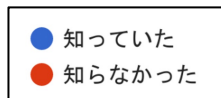
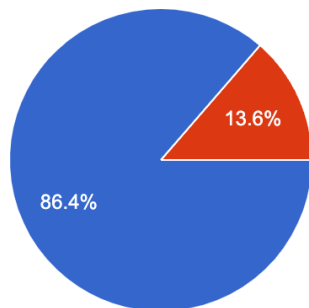
### 発表時間



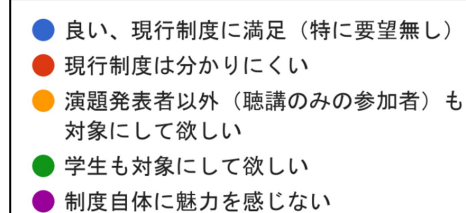
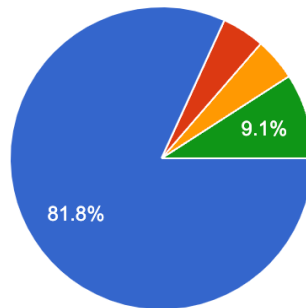
### 口頭とポスターの比率



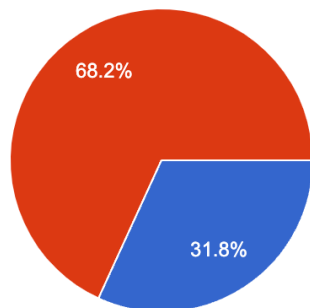
## 非会員の入会初年度 年会費無料制度 の認知度



## 非会員の入会初年度 年会費無料制度 についての要望

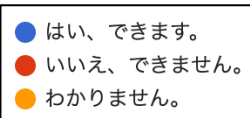
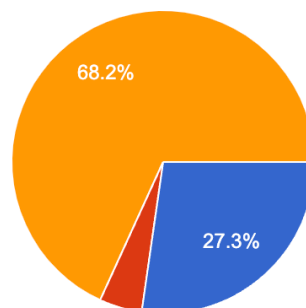


## 免疫毒性実験プロトコル への希望



- ImmunoTox Letter（または学会HP）に実験プロトコル本文を掲載し、会員・非会員の区別無く広く研究者が閲覧できる形式で共有してほしい。
- ImmunoTox Letter（または学会HP）には概要のみ掲載し、実験プロトコル本文は、会員のみが閲覧できる形式で共有してほしい。
- 特に免疫毒性実験プロトコルの情報共有を必要としない。

## 免疫毒性実験プロトコル への実験プロトコルの提供 について



年代	所属	参加条件	総評	2. 1) ②-a 興味を持たれた講演やセッションはどれでしょうか？	②-b 左記中で特に興味を持たれた演題について聞かせてください。
50歳以上	公的研究機関	会員として参加	★★★	特別講演1：日本におけるワクチン開発：SCARDAの取り組み、公開シンポジウム：「環境から曝露される化学物質の健康リスク評価」	OS-03
	大学（教職員）	会員として参加	★★★	第30回記念講演1：免疫毒性学の黎明期～毒性発現標的としての免疫機構と環境因子による免疫変容～、第30回記念講演2：ICH S8 ガイドラインの意義と新たな課題、特別講演1：日本におけるワクチン開発：SCARDAの取り組み、特別講演2：Utility of Immune Humanized Mice in Toxicity Assessment、教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、受賞講演（学会賞）：生殖免疫毒性という新たな概念の確立、受賞講演（奨励賞）：金属アレルギーの発症メカニズムと予防・治療法に関する研究、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」、学生・若手セッション、一般演題（口頭発表）、一般演題（ポスター発表）、公開シンポジウム：「環境から曝露される化学物質の健康リスク評価」	
		会員として参加	★★★	第30回記念講演1：免疫毒性学の黎明期～毒性発現標的としての免疫機構と環境因子による免疫変容～、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、学生・若手セッション、一般演題（ポスター発表）	
		会員として参加	★★	特別講演1：日本におけるワクチン開発：SCARDAの取り組み	
		会員として参加	★★★	受賞講演（奨励賞）：金属アレルギーの発症メカニズムと予防・治療法に関する研究、一般演題（ポスター発表）	
		会員として参加	★★★	第30回記念講演1：免疫毒性学の黎明期～毒性発現標的としての免疫機構と環境因子による免疫変容～、教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」、学生・若手セッション、一般演題（口頭発表）	
		会員として参加	★★	第30回記念講演1：免疫毒性学の黎明期～毒性発現標的としての免疫機構と環境因子による免疫変容～、特別講演2：Utility of Immune Humanized Mice in Toxicity Assessment、教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、一般演題（ポスター発表）	ポスター発表、高分子医薬品の抗原性試験の国際標準品
		会員として参加	★★★	特別講演1：日本におけるワクチン開発：SCARDAの取り組み	
会員として参加	★★★	特別講演2：Utility of Immune Humanized Mice in Toxicity Assessment、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」、公開シンポジウム：「環境から曝露される化学物質の健康リスク評価」	免疫毒性評価を行う際にもリスク評価の考え方は重要だと思いますので、良かったと思います。		
40歳代	企業	会員として参加	★★	特別講演1：日本におけるワクチン開発：SCARDAの取り組み、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」	
		会員として参加	★★★	第30回記念講演2：ICH S8 ガイドラインの意義と新たな課題、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」	
	公的研究機関	会員として参加	★★★	教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、公開シンポジウム：「環境から曝露される化学物質の健康リスク評価」	
		会員として参加	★★	第30回記念講演1：免疫毒性学の黎明期～毒性発現標的としての免疫機構と環境因子による免疫変容～、学生・若手セッション、公開シンポジウム：「環境から曝露される化学物質の健康リスク評価」	
	大学（教職員）	会員として参加	★★★	シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、学生・若手セッション、一般演題（口頭発表）	
		会員として参加	★★	教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、一般演題（口頭発表）	
		会員として参加	★★★	特別講演1：日本におけるワクチン開発：SCARDAの取り組み、教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、公開シンポジウム：「環境から曝露される化学物質の健康リスク評価」	重症薬疹の発症メカニズム（阿部理一郎先生）、疫学研究からみた化学物質暴露とアレルギー疾患の関係（山本貴和子先生）
		会員として参加	★★	教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、受賞講演（奨励賞）：金属アレルギーの発症メカニズムと予防・治療法に関する研究、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」、学生・若手セッション、一般演題（口頭発表）、一般演題（ポスター発表）	
会員として参加		★★★	第30回記念講演1：免疫毒性学の黎明期～毒性発現標的としての免疫機構と環境因子による免疫変容～、第30回記念講演2：ICH S8 ガイドラインの意義と新たな課題、特別講演1：日本におけるワクチン開発：SCARDAの取り組み、特別講演2：Utility of Immune Humanized Mice in Toxicity Assessment、教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、受賞講演（学会賞）：生殖免疫毒性という新たな概念の確立、受賞講演（奨励賞）：金属アレルギーの発症メカニズムと予防・治療法に関する研究、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」	年会賞受賞2演題	
会員として参加	★★★	教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」、一般演題（口頭発表）、公開シンポジウム：「環境から曝露される化学物質の健康リスク評価」	humanized mouse		
30歳代	企業	会員として参加	★★★	シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」、一般演題（口頭発表）、一般演題（ポスター発表）	AAVベクター製品の免疫毒性評価の課題
	公的研究機関	会員として参加	★★★	教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズム、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」、一般演題（口頭発表）	生殖免疫毒性という新たな概念の確立
		会員として参加	★★★	第30回記念講演1：免疫毒性学の黎明期～毒性発現標的としての免疫機構と環境因子による免疫変容～、第30回記念講演2：ICH S8 ガイドラインの意義と新たな課題、特別講演1：日本におけるワクチン開発：SCARDAの取り組み、特別講演2：Utility of Immune Humanized Mice in Toxicity Assessment、教育講演：重症薬疹における細胞死メカニズムと予防・治療法に関する研究、シンポジウム「新規モダリティ医薬品・ワクチン開発における免疫毒性」、試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」、学生・若手セッション、一般演題（口頭発表）、一般演題（ポスター発表）、公開シンポジウム：「環境から曝露される化学物質の健康リスク評価」	重症薬疹における細胞死メカニズム

年代	所属	参加条件	総評	2. 1) ⑤ その他ご感想等ありましたら御願います。	2. 2) ② 学術年会Web開催の今後のあり方について、今後取り上げてほしいテーマ、若手セッションのあり方、バナー広告主からの情報（事務局送信メール文末のJSIT BLINC News）への興味、その他ご意見等ありましたらご記入下さい。
50歳以上	公的研究機関	会員として参加	★★★★	バッジの次は何がもらえるのか楽しみです	
	大学（教職員）	会員として参加	★★		交流のため、できるだけ、対面開催がよいと思う。
		会員として参加	★★★★		海外からのon-line発表に関しては、質問に対する回答時間が長かったり質問者の数も多かったりと、時間配分を長くするなどの工夫が必要かと思いました。
40歳代	企業	会員として参加	★★★★		Cytokine release syndrome
	公的研究機関	会員として参加	★★★★		個人的には、学術年会はWeb開催ではなく、対面でおこなう方向に戻していくほうがよいと思っています。
	大学（教職員）	会員として参加	★★		一般口頭発表を増やしてはどうでしょうか。
30歳代	企業	会員として参加	★★★★	スクリーンがとても見やすく、コメントも用意されており、会議室も用意されていて、過ごしやすい工夫がされていて有難かったです。	
	公的研究機関	会員として参加	★★★★	立地や移動など負担が少なく参加しやすい素晴らし会と感じました。多くを勉強させていただき誠にありがとうございます。	特にございません。
		会員として参加	★★★★	とても良い学術年会でした。会場のWi-Fiが繋がりにくかった点が、唯一不自由でした。	ワクチン関連の演題が増えることを期待しております。ワクチンを専門にしている私自身も、学会の活性化に貢献したいと考えております。ワクチン業界の方々との交流が増えることは学会や免疫毒性学の発展においても大きなメリットがあると思っております。

年代	所属	参加条件	総評	3. 日本免疫毒性学会の今後の活動や方向性等について、ご意見やご提案等ありましたら、ご記入ください。	4. ImmunoTox Letter (6月と12月の年に2回発行している学会誌; 日本語版と英語版があり、それぞれのpdf版を学会HPに掲載中)について、ご意見、ご提案等ありましたらご記入ください。
50歳以上	公的研究機関	会員として参加	★★★★	そろそろ1会場にこだわらず、他学会のように2つの会場で同時並行して発表を行う形式も検討してよいかと思えます。	ホームページのバナー広告を誌面に載せてもよいかと思えます。
	大学（教職員）	会員として参加	★★	ImmunoTox letterに総説等、どんどん投稿して、学会誌として、内容の濃いものになればよいと思う。	
		会員として参加	★★★★		賛成です。
50歳以上	大学（教職員）	会員として参加	★★★★	日本免疫毒性学会の存在感を高めるために、日本毒性学会以外との合同企画やガイドラインの提案など外部との関わりや発信を強めてほしいと思います。	前の号を踏襲する記事以外にも単発の企画があっても良いかなと思います。
		40歳代	企業	会員として参加	★★★★